

講義名	ヒューマンリレーション論			
担当教員	西尾 範博			
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限 / 後期 金曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要 この授業は、実際にどこかで起きた人間及び人間関係上の出来事を感じたケースを取り上げ、毎回がディスカッションの連続となる。毎回、個人学習、グループディスカッション、クラスディスカッションというプロセスを経て、自己理解や他者理解を深めながら、人間関係に不可欠な知識とスキル（到達目標参照）を身につける。

到達目標 自らの考えや感情を表現する勇気と、ほかの人の考えや感情に耳を傾ける思いやりを身につけている。 ケースという他人事についてディスカッションする過程で、自己理解や他者理解を深めるながら、人間関係に不可欠な知識とスキルを身につけている。 問題を発見する力、分析する力、解決する力を身につけている。 ディスカッションに自ら進んで取り組むことができる。 自ら自律や課題を設定し、それを成し遂げたり解決に結びつけることができる。 現象や事実の間に隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる。 ディスカッションに際して、他者に働きかけ、協力を取りつけることができる。 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力してディスカッションを進めることができる。 他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる。 8回にわたるレポート作成を通じて、情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる。 8回にわたるディスカッションやレポート作成を通じて、新しい視点と豊かな発想によって新しい価値を見いだすことができる。
--

提出課題 毎回の授業内容に基づき課題に関するレポート（1,100～1,200字）の作成を課題とする。
--

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック 毎回課されたレポートは、学生一人ひとりに150字程度のコメントをつけて返却し、よりよいレポートの書き方や授業中のディスカッションをより充実したものになるよう指導するとともに、到達目標一つでも多く達成し、また少しでも深く達成できるよう支援していく。

評価の基準 レポートによる評価（全体の40％）と授業への参加状況や貢献度（60％）をもとに評価する。期末試験は行わない。なお、授業に出席してもレポートを期限通りに提出しないことや授業に欠席してレポートだけを提出するのは認められない。いずれも欠席として扱われ、授業4回分の欠席をもって評価の対象外となるので注意すること。

履修にあたっての注意・助言他 教育効果を最大限高めるため20名を定員とする。 週に一度のペースで1回あたり2コマ連続で開講する。 毎回がディスカッションの連続となるので、学生一人ひとりの積極的な参加と、発言等の貢献が不可欠となる。そのためには体調を整えて出席し、熱心に取り組むようにすること。 毎回ディスカッションをおこなうが学んでいく授業となるため、受講する学生はディスカッションに積極的に参加することが求められる。 授業に出席しても、受講態度がよろしくない学生は、共に学ぶための受講学生としてよくよく影響をもちたらず、出席回数に関係なく評価の対象外となる。
--

教科書 ・使用しない。					
-----------------------	--	--	--	--	--

プリント資料及び参考文献 授業中に随時ディスカッション用ケース（プリント資料）を配布し、参考文献を適宜紹介する。
--

授業計画 1. 授業概要の説明 2. ケース「諦めるべきか続けるべきか」に関するディスカッション 3. コミュニケーション・ゲーム（1） 4. コミュニケーション・ゲーム（2） 5. ケース1「二人の教授」に関するディスカッション（1） 6. ケース1「二人の教授」に関するディスカッション（2） 7. ケース2「フランス語の授業」に関するディスカッション（1） 8. ケース2「フランス語の授業」に関するディスカッション（2） 9. ケース3「4年目看護師の悩み」に関するディスカッション（1） 10. ケース3「4年目看護師の悩み」に関するディスカッション（2） 11. ケース4「価値観がちがう」に関するディスカッション（1） 12. ケース4「価値観がちがう」に関するディスカッション（2） 13. ケース5「マーケティング・サービス部長への昇進」に関するディスカッション（1） 14. ケース5「マーケティング・サービス部長への昇進」に関するディスカッション（2） 15. 全体のまとめ
--

授業形態（アクティブ・ラーニング） <input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 毎回の授業内容に基づき課題に関するレポート作成（2時間以上）をもって復習するとともに、学んだことを日常生活で試行すること（2時間以上）をもって次回の授業に臨むための予習とする。
--

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この授業は、上記の主題と概要、授業計画のもと到達目標の達成をもって、本学のディプロマ・ポリシーである、「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を持った人材、知識を知恵に転換することができる人材、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材、「自主・自立の精神を持った人材」、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材を育成するとともに、心理コースが育成を目指す「さまざまな課題に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる」こと、「コミュニケーション能力と、消費者と援助をもとめる人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面と心理学も応用することができる」ことに貢献する。
--

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 毎回がディスカッションの連続となるこの授業では、学生の発言なくしては成立し得ない。学生の発言内容一つ一つを担当教員が簡潔に板書しながらディスカッションが進む、双方向性の非常に高い時間の連続となる。その過程で到達目標が一つずつ達成されることに努めたい。
--

実務経験の有無及び活用
備考 学生の活発なディスカッションなくしては成立しない授業ゆえ、体調を整え、心身共に万全を期して出席すること（体調のよろしくない状態の学生には耐えられない180分となる）。